



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

神奈川県 寒川町立旭が丘中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：佐伯美香先生（バレーボール・ビーチバレーボール）
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、シドニー2000大会、北京2008大会】
- **期日**：2024年11月26日(火)
- **クラス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



アトランタ1996大会にバレーボール競技で、シドニー2000大会と北京2008大会にはビーチバレーボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューを説明し、運動の時間は仲間と一緒に協力して取り組んでほしい。パスやレシーブ等のデモンストレーションを代表生徒と行った後、ストレッチを実施。1人1個ずつバレーボールを持ち、ボールを頭上に投げる間に体の部位を触る等のボールに慣れるための運動を行う。その後、2人組になりパス練習を実施。

○主運動等



主運動はパス回し競争を実施(全3回)。班毎に円陣を作り、バレーボールを落とさずに連続してパスできた回数を競う。制限時間は2分間とし、2回連続して同じ人がボールを触っても良い。途中作戦タイムを設け、回数を増やす工夫を話し合う。2回目と3回目は目標回数を決めて挑戦。各班に作戦を尋ねると、ボールと向き合う、ボールを高く上げる、お互いの名前を呼び合う、落ちてボールを触る等答える。



パス回し競争では、仲間と協力して取り組むことを班の全員が意識できたことで、回数を増やすことができた。仲間同士の特徴を理解し、お互いがカバーし合いながら協力することが大切だ。それはスポーツだけではなく、学校生活の様々な場面で活かせる。座学の時間は、自分の経験してきたことをオリンピックバリューに当てはめて話すので、皆がオリンピックやオリンピックバリューを身近に感じて貰えたら嬉しいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：佐伯美香先生（バレーボール・ビーチバレーボール）
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、シドニー2000大会、北京2008大会】
- **期 日**：2024年11月26日(火)
- **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。小学校5年生からバレーボール競技を始めた。最初からオリンピックを目指していた訳ではなく、目の前の目標を1つ1つ努力して達成し続けた先にオリンピック出場という夢が叶った。1度オリンピックを経験すると、次も出場したいと強く思い、ビーチバレーボール競技に転向して挑戦した。3度目の挑戦は、1度引退し出産した後だった。苦しいこともたくさんあったが、周りの理解と協力のお陰で3度夢を叶えることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢や目標、挑戦したいことの実現のためにどのように取り組むか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 発表：エクセレンス：「何事にも挑戦する」「泥臭くベストを尽くす」「自分に甘えない」「苦手な事ができるまで努力する」等
 フレンドシップ：「お互いに理解し合い助け合う」「仲間と励まし合う」「ライバル心を持つ」「コミュニケーションをとる」等
 リスペクト：「相手に敬意を払い挨拶をする」「挑戦を支えてくれた仲間へ感謝」「家族や環境に感謝」「ルールを守る」等



オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく、皆の学校生活や日常生活の身近にある。何となく日常を過ごすよりも、目標があると生活に張りが出て積極的に行動することができる。夢や目標を持つ中で、上手く行かない時もある。その時は感謝の気持ちを思い出し頑張ってほしい。夢や目標は自分だけで考えるよりも、周囲に発信することも大切だ。それを聞いた人が応援してくれたり支えてくれる。これからも色々な人に関わり、色々なことに挑戦してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：田中 和仁 先生（体操／体操競技）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2024年11月26日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



ロンドン2012大会に体操競技に出場したと自己紹介。運動の時間はオリンピックバリューを意識して取り組んでほしい。皆で体育館を綺麗にしようと声を掛け、横1列に並び雑巾掛けを1往復実施。長座体前屈、開脚、V字バランス等を行った後、片足立ちのまま10秒毎のじゃんけんを繰り返し、負けたら10秒の間に腕立て伏せを10回行う。その後、倒立前転、後転倒立、バク転等の見本を披露する。

○主運動等



主運動は障がい物リレーを実施(全3回)。往路はマーカーの間をジグザクに走り、2枚のマットをバレーボールを持ったまま回転する。折り返しのコーンをタッチし、復路は2枚のマットを跳び越え、ミニハードルを両足で跳び越えて戻る。ゴール位置に並んでいる班の列の後ろを回り、次の人にボールを渡す。タイムで順位を競い、2回目以降は持っているボールを落としたら3秒加算するルールを追加。また、3回目はマットで回転する時以外はボールを頭の上で持って走る。



障がい物リレーでは、班によって男女の人数に違いがあったが、最後まで諦めずに走る様子は素晴らしい。皆で相談した作戦を実行し、1回目より2回目のタイムを縮めることができた。3回目はバレーボールを頭の上で持って走るルールが追加されたことで難易度が上がり、タイムは落ちてしまったが、どの班もしっかりルールを守ることができた。座学の時間は、運動の時間を振り返りながら、オリンピックバリューについて一緒に考え、学ぶ時間にしようと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：田中 和仁 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2024年11月26日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



体操競技の男子種目は床、あん馬、吊り輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目、女子種目は床、跳馬、段違い平行棒、平均台の4種目がある。自分は平行棒が得意で、3回日本一になった経験がある。リオデジャネイロ2016大会代表選考会の映像を見ながら、競技人生最後の演技だと話す。引退を決めて臨んだ大会で、初めて自分のためだけではなく、支えてくれた人への感謝の気持ちを込めて演技をした。今までで1番満足のいく演技だったと感じる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に意識したことや取り組んだことを、オリンピックバリューに当てはめて考えよう。

発表：エクセレンス：「タイムを縮めるためにベストを尽くした」「1位を目指した」「勝てるように工夫した」「諦めずに走った」等
フレンドシップ：「協力して助け合えた」「声を掛け合い応援した」「友達を大切にしたい」「ゴール後の列をつめて工夫した」等
リスペクト：「1つ1つのことに感謝を伝えた」「皆の意見を尊重して走順を決めた」「フェアプレーを意識した」等



夢や目標を持っている人は自分の夢を大切にしてほしい。目標達成に向けて日々一生懸命に頑張る、夢を叶えるためにどうすれば良いかを常に考えながら行動してほしい。また、1人では達成が困難な目標でも、応援してくれる人や支えてくれる人がいることで実現に近づく。周囲の人の助けを得ながら頑張ることも良いことだ。今はまだ夢や目標が見つからない人も、これからゆっくり見つければよいと思う。見つけた時には夢を大切にしながら目標に向かって頑張してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：田中 和仁 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2024年11月26日(火)

■ク ラ ス：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



ロンドン2012大会の体操競技に出場したと自己紹介。オリンピックバリューを説明し、運動の時間は仲間と協力しながら一生懸命取り組んでほしい。皆で体育館を綺麗にしようと声を掛け、横1列に並び、雑巾掛けを1往復実施。その後、長座体前屈、開脚、V字バランス等のストレッチを行った後、倒立前転、後転倒立、バク転等の見本を披露する。

○主運動等



主運動は障がい物リレーを実施(全3回)。往路はマーカーの間をジグザクに走り、2枚のマットをバレーボールを持ったまま回転する。折り返しのコーンをタッチし、復路は2枚のマットを跳び越え、ミニハードルを両足で跳び越えて戻る。ゴール位置に並んでいる班の列の後ろを回り、次の人にボールを渡す。タイムで順位を競い、2回目以降は持っているボールを落としたら3秒加算するルールを追加。また、3回目はマットで回転する時以外はボールを頭の上で持って走る。



障がい物リレーの3回目は、頭の上でボールを持つルールを追加したが、腕を振る動作ができなかったことでジャンプや走る難易度が上がり全体的にタイムは落ちてしまった。しかし、最後まで諦めずに全力で取り組んだことは素晴らしい。座学の時間は、自分の経験をオリンピックバリューに当てはめて話し、皆は運動の時間を振り返り、自分達の行動がオリンピックバリューとどんな共通点があるかをグループで考え、話し合ってもらいたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：田中 和仁 先生 (体操／体操競技) 【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2024年11月26日(火)

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。ロンドン大会が開催された4年前の北京2008大会の代表選考会に出場した際、僅差で6名の選手枠から漏れてしまい、北京大会に出場することができなかった。当時はオリンピックに出られたらいいなと思うくらいで、オリンピックを目指す強い決意が足りなかった。次のオリンピックは必ず出場すると決め、苦しい練習を乗り越えたお陰で、2009年から日本代表選手に選ばれ、ロンドン大会に出場する夢を叶えることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間の行動や意識したこと、考えたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「最後まで走り切った」「負けていても諦めずに一生懸命取り組めた」「協力して走順を決めた」等

フレンドシップ：「応援し合えた」「ナイスと声を掛けた」「皆で作戦を考えた」「思いやりのある行動ができた」等

リスペクト：「相手を尊重して拍手をする」「他の班を応援する」「ルールを守れたことと、守れなかったことがあった」等



グループワークで協力して意見を出し合い、運動の時間をしっかり振り返り発表する様子は素晴らしい。今、夢や目標を持っている人はそれを大切にしてほしい。まだ目標が見つからない人もゆっくり探してほしい。目標達成に向かって諦めずに頑張り続けければ、夢はいつか叶う。1日1日を大切に過ごしてほしい。夢に大きさや達成の速度は関係なく、夢に向かって努力し、一生懸命頑張る過程が大切だ。最後にロンドン2012大会で獲得したメダルを披露し、授業終了。

■ **オリンピック**：宮澤 崇史 先生（自転車／ロード）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2024年11月27日(水)

■ **ク ラ ス**：2年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



北京2008大会の自転車のロード競技に出場したと自己紹介。自分の肝臓を母親に移植をする手術を行った後、体力の回復と戦いながら努力し続けた結果、オリンピックに出場することができた。皆がなりたい自分になるために、何事にも努力するきっかけになるような時間になりたい。ストレッチの後、4ヶ所にポイントを設け、じゃんけんに勝ったら次に進み、負けたら最初のポイントに戻るゲームを3回行う。3回目は負けたら次に進むルールで実施。

○主運動等



主運動は記憶力競争リレーを実施(各班2回ずつ全4回)。3箇所にエリアを設け2班ずつに分かれる。20枚の紙皿を並べその上にハチマキをランダムに置く班と、その置かれたハチマキの色と場所を記憶する班に分かれ、交互に1回ずつ実施。制限時間は1人10秒の持ち時間で走り、時間内に走れなかった場合は1点減点する。位置と色が合っているかの答え合わせを実施後、各班の正解数を競う。途中作戦タイムを設け、どうすれば上手く記憶を活かせるかを班で話し合う。



仲間に声援を送ることはとても素晴らしい。皆それぞれが得意とすることや苦手なことがある中で、より多くの正解を目指して班で話し合い、仲間の特徴を活かした戦い方を見つけることができた。持参したロードレーサーを披露し、競技経験の中で何事も作戦次第で苦手なことでも戦うことができると話す。座学の時間は、運動の時間に考えた作戦やチームの役割等について話し合う時間にと伝え、授業終了

■ **オリンピック**：宮澤 崇史 先生（自転車／ロード）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2024年11月27日(水)

■ **ク ラ ス**：2年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



中学校2年生の時に、ツール・ド・フランスを見て自転車競技に興味を持ち、世界を目指しオリンピックに出場したいという夢を持った。競技生活やこれまでの経験を通して、自分を信じることで、得意なことや面白いと思ったことは諦めずに努力し続けることの大切さを学んだ。誰にでも得意不得意があるが、自分自身の力を理解した上で、チームのために考え工夫すること、またライバルやレースに対して敬意を持ちベストを尽くすことが大事だ。自分を信じ常に万全な準備をしてきたことで夢が叶った。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り何を意識したか、またもう一回実施したらどんな工夫をしたかを考えてみよう。

発表：エクセレンス：「満点を取る気持ちで取り組んだ」「覚える場所を決めた」「責任をもって取り組む」「時間を意識する」等

フレンドシップ：「声を出して応援した」「最後の人に時間を残す」「仲間の得意不得意を知り覚える場所を決める」等

リスペクト：「1人1人が10秒できちんと戻る」「1列ではなく2列覚える」「相手のチームが応援してくれた」「楽しむ気持ち」等



過去を振り返り、もし失敗して反省することで、未来に活かすことができる。これから皆は色々な節目に夢や目標について悩んだり決断しなければならない時が必ずくる。日常生活の中に必ず小さなヒントがあるので、毎日自分と向き合い、良い1日をスタートできるような準備をしておいてほしい。おのずと未来が変化していく。その変化を楽しむ気持ちを忘れずに、予習と復習ができる大人になってほしい。また、日々を楽しめる人になってほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- **期 日**：2024年11月27日(水)
- **ク ラ ス**：2年5組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



長野1998冬季大会とソルトレークシティー2002冬季大会にスピードスケート競技で出場したと自己紹介。現在も競技に携わり、スピードスケート副強化部長を務めている。運動の時間は、どんなことができるか、何をしたらか考えながら参加してほしい。体育委員の号令で全員で円を作り、屈伸、伸脚等の体操を行った後、体でじゃんけんを表現するゲームを実施。先生のじゃんけんに出して負けてしまったりあいこの場合はその場に座る。2回目以降は先生に勝ったらその場に座るルールで行う。

○主運動等



主運動は滑走リレーを実施(全4回)。片足にモップシューズを履き、姿勢を低くしたまま滑るように走る。折り返し地点のコーンを回ってスタート地点に戻り、次走者にタスキを渡して引き継ぐ。最終走者がゴールしたタイムで着順を競う。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合う。3回目は走距離を長くし、4回目は走距離を短くして実施。



運動の時間を振り返り、チーム全員でルールを守り、作戦を考え、仲間を応援して取り組むことができていた。皆が取り組む中で心掛けたことや、距離が変わったことでどのように作戦を変えたか、結果を見ると順位が入れ替わったがどんな理由があったか等、考えておいてほしい。それを座学の時間に振り返りながら皆で考えたい。そしてオリンピックバリューを今後どう活かしていくかを考え、グループで話し合ってもらいたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- **期 日**：2024年11月27日(水)
- **ク ラ ス**：2年5組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。実際に履いていたスケートシューズを披露。自分が大切にしてきたことは、常に諦めない気持ちを持つことだ。自分では頑張っているつもりでいても、誰にも負けない努力をしていると思っていても、必ずしも結果が付いてくるとは限らない。途中で疲れてしまう時もある。それでも諦めないで頑張りを続けるとまた良い結果が出る。苦手なことを頑張るよりも好きなことや夢になれるものを見つけてほしい。得意なことを少しずつ伸ばせばよいと思う。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に考えたこと、頑張ったこと等はどんなオリンピックバリューに結びつくか考えよう。
 発表：エクセレンス：「最後まで諦めなかった」「ベストを尽くすために作戦を立てた」「チームに貢献した」「速い人を真似た」等
 フレンドシップ：「チームメイトを応援した」「一致団結した」「ポジティブなアドバイスを送った」「クラス全員を応援」等
 リスペクト：「相手チームに拍手」「敵チームを褒める」「相手チームを尊重」「皆が楽しめる雰囲気を作る」「ルールを守る」等



運動の時間にオリンピックバリューを意識しながらチームで頑張ったことを、グループワークでお互いが言葉にして、それを文字にして沢山書くことができたことは素晴らしい。仲間を思いやり、最後まで諦めずに頑張れたのは、クラスの仲が良いからだと思う。これからも仲間を大切にしながら、自分自身で考えることを忘れないでほしい。オリンピックが特別なのではなく、皆にもできることは沢山ある。これからもオリンピックバリューを頭の片隅に置き、学校生活を楽しんでほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- **期 日**：2024年11月27日(水)
- **ク ラ ス**：2年6組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



長野1998冬季大会とソルトレークシティー2002冬季大会にスピードスケート競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューは、オリンピックだけのものではなく皆身近に感じ意識しながら取り組んでほしい。体育委員の号令で全員で円を作り、屈伸、伸脚等の体操を行った後、体でじゃんけんを表現するゲームを実施。先生のじゃんけんに後出しで負けてしまったりあいこの場合はその場に座る。2回目以降は先生に勝ったらその場に座るルールで行う。

○主運動等



主運動は滑走リレーを実施(全4回)。片足にモップシューズを履き、姿勢を低くしたまま滑るように走る。折り返し地点のコーンを回ってスタート地点に戻り、次走者にタスキを渡して引き継ぐ。最終走者がゴールしたタイムで着順を競う。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合う。2回目から先生チームが参加し、7つの班でタイムと順位を競う。



運動の時間を振り返り、1人1人の行動や班の仲間への声掛け、作戦タイムでの話し合い等、全てがオリンピックバリューを意識しながらできていたと思う。座学の時間は、自分のオリンピックへの思いや経験を通して感じるオリンピックバリューについて話したい。皆は運動の時間にどんなことを考え、仲間とどんな話し合いをし、どんな目標を立てたかを話し合い発表してほしい。皆の考えに正解も不正解もないので、感じたことや思ったこと素直に話してほしいと伝え、授業終了。

- オリンピアン：三宮 恵利子 先生（スケート／スピードスケート）
【出場オリンピック／長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- 期 日：2024年11月27日(水)
- ク ラ ス：2年6組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



中学校2年生の頃は、とにかく滑ることが好きで、大会に行くと他校の友達ができそれもととても楽しかった。高校生になってもスピードスケート競技を続け、オリンピックに出場することができた。自分は好きなことで夢を叶えることができた。皆にも好きなことや夢になれるものを見つけてほしい。今見つけることができなくてもゆっくり探してほしい。自分は諦めないという言葉大切にしている。努力も頑張るも疲れたら休んで良いと思う。なりたい自分を決めて諦めないで大切にしてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に頑張ったことや良かったこと、考えたり工夫したこと等をオリンピックバリューに結び付けて考えてみよう。
発表：エクセレンス：「手を抜かない」「諦めない」「改善点を見つける」「一生懸命頑張る」「得意不得意を乗り越えた」「楽しんだ」等
フレンドシップ：「仲間を応援できた」「協力した」「褒め合えた」「声掛けをした」「アドバイスをし合う」「チームワーク」等
リスペクト：「ルールを守れた」「友達の意見を尊重できた」「他のチームの走りを参考にした」「拍手で敬意を示した」等



座学の時間を振り返り、グループワークではお互いの意見をしっかりと出し、それをきちんと書いてくれた。そうすることでお互いの思いが見える。オリンピックバリューを常に意識することで、後輩等にもアドバイスができる中学校3年生になってほしい。オリンピックバリューの中で、特に自分がリスペクトを感じた実例を話し、オリンピックだけではなく、皆もクラスの友達に敬意をもって接することで、友達関係や人間関係が良い方向に広がると話し、授業終了。

■修了証贈呈

